

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立池尻小学校

教育目標 『すべての子どもを幸せに』～自尊感情を高め、自立してたくましく生きる児童の育成～

重点目標 「生きる力」を育み未来への道を切り拓く力の育成(生涯にわたる可能性とチャンスを最大化) 子どもたちの学びを支える環境の充実

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 宿題や課題を事後までやりきらせるよう支援する。 漢字や計算などの小テストを実施する。 めあてを提示し、ふり返り等で理解を確認しながら授業を進める。 校内研修として、すべての教員が年1回以上授業公開する。 児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。 他校の研究会に年一回以上参加できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出率が90%以上になる。 暗算学習を利用して算数(火曜日)算数(水曜日)の小テストを月4回実施する。 児童アンケートにおいて「めあて」を記入し、ふり返りを行ったとの回答が80%以上になる。 すべての教員が年1回以上授業公開する。 児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。 他校の研究会に年一回以上参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出は児童アンケートにおいて宿題は毎日忘れずしているが90%で教師のアンケートでも宿題や課題の提出が90%以上になっている[結果が94%と良い結果となっている] 暗算に算数(火曜日)算数(水曜日)を行う習慣がどのクラスについている。その間に小テスト又はそれに準じたプリントも出している。 授業推進のアンケートにおいて「活版屋スタイル」を実施しているの割合が90%であり、あわせて「ふりかえり」を重視した授業ができていた。 すべての教員が年一回以上の授業公開ができた。 児童アンケートにおいて先生は、教え方に色々工夫しているの割合が90%、Bが19%で、合計98%になった。 本年度はコロナの影響で、他校も研究会を行っているところが少ない参加はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言で、一斉休校があり、その時期に家庭で学習する習慣が定着した。また、家庭での学習が定着したことがきっかけとなり、引き続き家庭での学習を奨励する。その上で、学校でも可能な範囲で学習を促している。 暗算の練習は宿題・朝読書について習慣化して行うことができていたので、引き続き暗算学習の時間を有効に使うよう取り組む。 めあてとふりかえりを中心に日常徹底を目指し、意識した取り組みをする。 研究会を含め一人一人授業は実施できた。しかし、密を避けたために全職員が見に行けず、子どもたちなどの事後研となった。今後も事後研の方法を考えて実施していく。 他校の研究会が実施できれば、積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の授業改善(保護者から評価されている。個別授業の推進、分りやすい授業、新学習) 暗算学習の習慣が定着している。 宿題・課題の提出率が良い。 校内研修会の充実をさらに行う。 家庭での学習の推進をさらに行う必要がある。 児童への意識は個人により違ってくるので個別に対応して関わっていく。 始業前・学習に向かう意欲を大切に育てていく必要がある。 	
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 読書活動を実施させ、自ら学び探求する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> NIEやICTを活用した分かる授業を実施し、学習に対する興味・関心を喚起する。 ICTを活用した授業を週1回以上行う。 全校一斉の朝読書の時間を週3回実施する。 読書記録カードを活用することで読書意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」との回答が90%以上になる。 ICTを活用した授業を週1回以上行う。 週80分以上の読書量を確保する。(朝読10分×3回 読書) 読書記録カードを活用する。 児童アンケートにおいて「先生は読書が好き」との回答が90%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」との回答が90%以上になった。 ICTを活用した授業を週1回以上行うことができた。学習意欲を向上させる授業も実施できた。 読書の時間や朝読書(月・木・金)の定着で、時間の確保はしているものの、読書の読書時間の確保はできていない。 コロナの影響で、読書の読書時間の確保が難しくなっている。 読書記録カードの活用ができていない。 児童アンケートにおいて「先生は読書が好き」との回答が90%、Bが17%ととても良い結果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台のタブレットが配布されたので、それを利用した授業を行うことができるように研修をした。 NIEやICTを活用した授業や学力向上の研修を行い、児童の興味を喚起するよう授業改善を推進する。 家庭での読書の機会を家庭に任せずに行き、学校からの課題として読書の課題を出すようにする。 コロナの影響で読書時間は確保できず、読書の興味関心を高めるための取り組みをすることにより、読書への興味関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かる授業が機能している。 読書の習慣化が進んでいる。今後も継続していく。 タブレットの活用度が高い。 読書ボランティアの活動が定着している。
	特別支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた支援計画を立て適切に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達検査や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 必要に応じてケース会議も実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議を毎月1回以上実施し、必要に応じて個別支援計画を作成する。 校内研修を年2回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に一回校内委員会を行い、各学年の児童の実態について情報交換することができた。 サポートファイルの作成を行い、学期ごとの個別支援計画や個別支援計画を策定することができた。 必要に応じて、ケース会議を実施し、個別支援計画を作成することができた。 必要に応じて、個別支援計画を策定することができた。 必要に応じて、個別支援計画を策定することができた。 必要に応じて、個別支援計画を策定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> これらからさらに深く児童を理解し、実態に即した対応や支援に努める。 必要に応じて、関係機関と連携をとり児童の発達について適切なアドバイスを受けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画を立て、一人一人の心育をすることが重要視されているなど対応がよい。 ケース会議や委員会など支援体制が充実している。 ICTの活用が効果的。
子どもの問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動に対する指導体制を充実させる。 いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童を理解し、指導の徹底を図る。 関係機関と密に連絡を取り合う。 いじめアンケート調査を年2回実施する。 不登校児童の情報を全職員で共有する。 家庭でのゲームやスマホの使用のルール作りを相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を年2回以上行う。 児童アンケートにおいて「自分大切にすることや他の人の思いやりについて教えてもらった」との回答が85%以上になる。 児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が90%以上になる。 不登校対策委員会を年3回以上行う。 ゲームやスマホの使い方のルール作りが70%以上の家庭できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活、人権の研修を年2回実施することができた。 「自分大切にすることや他の人の思いやりについて教えてもらった」との回答が85%以上になった。 関係機関と密に連絡を取り合うことができた。 いじめアンケート調査を年2回実施することができた。 不登校児童の情報を全職員で共有することができた。 家庭でのゲームやスマホの使い方のルール作りが70%以上の家庭できていることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も児童の実態把握に努め、きめ細かく対応していく。 子どもたちの成長のため、保護者や地域とさらなる連携を図る。 不登校対策委員会を予定通り年2回以上(学期1回以上)を行い、不登校児童の実態把握とその改善策を検討する。 ゲームやスマホの使い方について学校・家庭・地域連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内でのいじめが改善されているので未然防止も進んでいる。 いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 関係機関と密に連絡を取り合う。 不登校児童の情報を全職員で共有する。 家庭でのゲームやスマホの使用のルール作りを相談する。 	
豊かな心・健康やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 児童の体力の向上を図る。 健康教育の充実 健全な食生活の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 各学年に応じた運動プログラムをより具体的に簡単な内容にし、研修等で紹介し、実施を進める。 食生活に関心をもち、健康に生活しようとする児童を育成する。 食育を給食の時間や授業において推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れる」との回答が90%以上になる。 各学年に応じた運動プログラムをより具体的に簡単な内容にし、研修等で紹介し、実施を進める。 食生活に関心をもち、健康に生活しようとする児童を育成する。 食育を給食の時間や授業において推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学年に応じた運動プログラムを取り入れる」との回答が90%以上になった。 各学年に応じた運動プログラムをより具体的に簡単な内容にし、研修等で紹介し、実施を進めることができた。 食生活に関心をもち、健康に生活しようとする児童を育成することができた。 食育を給食の時間や授業において推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して運動会や行事などを通して運動や体力を鍛える機会を確保する。 委員会を中心に「みんなで楽しむ」の大会をとり、外遊びの道具の貸し出しをしたりと外遊びを推奨する活動を行う。 食生活に関心をもち、健康に生活しようとする児童を育成することができた。 食育を給食の時間や授業において推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で年間運動会に持ち込めず縮小したり、実施できなかったりしている。運動会開催を元気に進めたい。 委員会を中心に「みんなで楽しむ」の大会をとり、外遊びの道具の貸し出しをしたりと外遊びを推奨する活動を行う。 食生活に関心をもち、健康に生活しようとする児童を育成することができた。 食育を給食の時間や授業において推進することができた。 	
開かれ情報類される学校	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に学校情報を発信する。 学校情報類される学校 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ホームページを月1回以上更新する。 ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 マナーや生活のまきまりを学校だよりで月目標として掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを月1回以上発行する。 ホームページを月1回以上更新する。 ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 マナーや生活のまきまりを学校だよりで月目標として掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりは月2回以上発行した。 ホームページで半年毎に学校の様子を知ることができた。 保護者アンケートにおいて、「学校は、学校・学年だよりホームページなどを通して積極的に発信している」との回答が90%以上になる。 保護者アンケートにおいて、「学校は、マナーや生活のまきまりを学校だよりで月目標として掲載している」との回答が90%以上になる。 保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者の願いに応えている」との回答が90%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも積極的に学校の情報を発信していく。 学校だよりや学年通信でこまめに学校生活の様子を知らせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で学校の様子が見えなくなってきたが、ホームページで見ると学校生活の様子を知ることができた。 ホームページで見ると学校生活の様子を知ることができた。 ホームページで見ると学校生活の様子を知ることができた。 	

学校関係者評価総括
 ・宿題や課題の提出率が高いなど落ち着いて学習できているので今後も継続するとともに体力向上についても工夫しながら取り組んでいく必要がある。
 ・スマホやゲームの使い方について知りやすく指導するとともにあらゆる機会を通して保護者との連携をとっていく。
 ・毎日の細かい情報提供(ホームページや学校だより)があり、学校の取り組みがよく分かった。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・学年や全校で小テストの結果をPDCAで客観的に捉え改善につなげる。
 ・めあてとふりかえりをさらに日常徹底を目指し、意識した取り組みをする。
 ・NIEやICTを活用した授業や学力向上の研修を行い、児童の興味関心を高め学力向上を目指す。
 ・不登校対策委員会を年3回以上(学期1回以上)行い、不登校児童の実態把握とその改善策を検討する。
 ・図書ボランティアと連携しながらさらに読書への興味・関心を高めるとともに読書の課題を工夫し出すなど家庭での読書の時間を増やすようにする。
 ・今後も学校だよりや学年通信でこまめに学校生活の様子を知らせ保護者、地域との連携を図り、児童の健全な育成を目指す。

自己評価の基準 A:目標を上回った。 B:目標どおりに達成できた。 C:目標をやや下回った。 D:目標を大きく下回った